開 催 要 項

開催にあたって

景気の先行きは未だに不透明であり、製造業企業は、特に厳しいビジネス環境が続いています。多くの企業においては、この難局を乗り越えるべくさまざまな努力を行い、無駄を省きコスト削減に努めています。しかしながら、いつまでもコスト削減が続けられるものでもなく、新たな時代を迎え、次なるビジネスモデルを構築するチャレンジが求められています。

まさに転換期を迎えている製造業企業では、あらためて自社の強みを見つめ直し、それを核に成長戦略を描き実践していかなければなりません。また、コスト削減のためだけに海外生産をするのではなく、グローバルの市場、グローバルなリソースをいかに活用し、今後どのようなビジネスを展開するかを考えていかなければなりません。さらに不確定な時代だからこそ、さまざまな情報を駆使し活用して未来を予測し、企業自ら迅速かつ柔軟に変化をしていく必要があります。

本セミナーにご協力いただける企業様は、地域の核となるオンリーワン企業であり、独自の経営、独自の技術を発揮したものづくりを行い、顧客ニーズ・時代に対応した製品やサービス・生産工程を確立し、ニューノーマルな時代でも成長し続けている企業様です。

企業力を支える独自の経営戦略・人材育成・コア技術等のトップスピーチ、独自技術に加え、独創的な工夫等の個性ある生産体制・生産設備を製造現場にて研修を行う計画とした全６回の講座を開催し、参加される皆様の企業力・現場力強化に役立てることを目的としています。

開催方法

表示しました全６講座に年間会員登録をいただき、各講座の詳細を逐次ご案内します。講座毎のお申し込みはできませんのでご了承ください。

各講座の出欠はご随意です。

申し込み・問い合わせ先

◎長野県中小企業団体中央会　　http://www.alps.or.jp

・連携支援部	TEL（026）228-1171	FAX（026）228-1184
・東信事務所	TEL（0268）24-1788	FAX（0268）25-3258
・中信事務所	TEL（0263）32-0477	FAX（0263）32-7299
・南信事務所	TEL（0266）78-4030	FAX（0266）58-6670
飯田分室	TEL（0265）24-7088	FAX（0265）24-5734

申し込み締め切り

令和５年８月29日（火）

令和５年度経営セミナー

受講のご案内

…独自の経営戦略・技術・生産体制を現場で学び成長に繋げる…

基調テーマのもと経営戦略、現場改善、
最新技術について全６講座を現場にて研修

主　催　長野県中小企業団体中央会
　　長野県中小企業労働問題協議会
後　援　長野県
　　公益財団法人 長野県産業振興機構
　　令和５年度　中小企業連携組織支援事業

基調テーマ：「ニューノーマルの時代でも成長を続ける企業力」

●カリキュラム

開催月	テ　ー　マ	講　　師	内　　容	開催地	日時・会場
9月	「0.001秒」、角度検出の極限に挑戦	多摩川精機株式会社 代表取締役社長 松尾　忠則　様	位置・角度制御をコア技術に自動車、航空機、宇宙、工作機械、工業ロボットなど幅広い分野で最先端の製品を提供する同社。ハイブリッド車やEVに不可欠な角度センサーを世界中のメーカーへ供給し、航空機分野では、米国大手航空機メーカーの一次サプライヤーとして取引を行うなど世界レベルで事業を展開している。高精度角度センサー・各種モータ・ジャイロなど、その時代に必要とされた制御装置の角度精度向上に挑み、各種製品を商品化してきた。その中でも、特にハイブリッド車の命ともいえる「角度センサー」は、90%以上の圧倒的なシェアを誇っている。現在はこれらの高精度センサ技術を応用し、医療分野・宇宙産業分野へと活躍の場を拡げている。また、従来は国内の生産拠点でのライン増設などで生産体制の強化を推し進めてきたが、今後は海外での増産体制も検討している。視察を行う第二事業所では、主にハイブリッド自動車角度センサー、電車用等の各種センサーの開発設計・製造と民間航空機用センサー、モータの製造を行っている。 **本講座では、創業以来、制御装置の角度精度に挑み続け、幅広い分野で最先端の製品を提供し続ける同社の取り組みについて研修する。** ※当講座は受入３０名限定	飯田市	令和5年9月15日（金） 午後1時30分～ 多摩川精機（株）・ 第二事業所
10月	技術のデジタライズによるソリューション型生産技術への取り組みとウェルビーイング経営が企業にもたらすメリット	吉田工業株式会社 代表取締役社長 吉田　寧裕　様	同社は1965年の創業以来、アルミ鋳造と精密切削をコア技術として成長を続けている。より高品質な精密製品を提供するために金型の設計から鋳造、加工に至るまで一貫して手掛ける生産体制を構築。アルミ鋳造自動ラインや切削加工ラインを稼働させるとともに、砂型積層3Dプリンターによる試作開発事業を開始。積極的な設備投資でCAE解析ソフト、3Dスキャナ等のデジタル機器を導入し、熟練した技能者の製造技術をデータ化、標準化することに成功。製品の試作から関わることで早い段階で量産を見据えた形状や材料置換等の提案が可能となり、顧客の困りごとを解決する提案型企業への変革を図っている。「ソリューション型生産技術」はNAGANOものづくりエクセレンス2022に認定されるとともに、ものづくり大賞も受賞している。 社員の幸福度、働き方改革にも積極的であり、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。また、平成29年には佐久平プラント内に米国料理のレストラン「RedRocks（レッドロックス）」をオープン。昼は社員食堂、夜はレストランとして営業。工場の設備などを眺めながら食事が楽しめるユニークな造りで地域の交流場としても提供している。 **本講座では、デジタライズされた匠の技で顧客の困りごとを解決するソリューション技術とウェルビーイング経営が企業にもたらすメリットについて研修する。** ※当講座は受入２５名限定	佐久市	令和5年10月18日（水） 午後2時30分 吉田工業（株）・ 佐久平プラント
11月	空気圧の更なる独創性を追求する	株式会社日本ピスコ 代表取締役会長 山崎　清康　様	1976年、空気圧機器の配管用継手やソレノイドバルブの開発・製造・販売業として創業。創業以来、積極的な設備投資や生産拠点の増強を行い、現在では本社工場を含め国内に5つの工場が稼働するとともに、海外展開も積極的に行い、台湾やアメリカ、韓国等に現地法人を設立している。高い品質管理、工程管理、生産管理を追求するため、金属加工や射出成形金型等の内製化を進め、自動組立機、自動検査機の導入を通して生産効率を高めている。更に、部品や完成品格納用の自動倉庫など、物流の自動化を進め、コスト削減と供給の安定化を実現している。同社製品「固定圧レギュレータ」では、NAGANOものづくりエクセレンス2022に認定されるとともに、ものづくり大賞も受賞している。 近年、人手不足による生産工程の自動化ニーズに対応するため、ロボットハンドパーツを開発。多くの産業用ロボット等に採用され、今後のさらなる市場拡大が見込まれるとともに、クリーンで安全、エコロジーなエネルギーである空気圧を有効に活用する同社の空気圧制御技術は、産業のFA化（ファクトリー・オートメーション）に貢献している。 **本講座では、オリジナリティ豊かな空気圧機器の技術開発とそれを可能にしている生産現場・企業力について研修する。**	上伊那郡 南箕輪村	令和5年11月（予定） （株）日本ピスコ・ 伊那第二工場
12月	ライフルスコープ・高性能双眼鏡でワールドベストに挑戦	株式会社ライト光機製作所 代表取締役社長 岩波　雅富　様	創業以来培ってきた高度な匠の技術でライフルスコープ、高性能双眼鏡の製造領域で世界的に存在感を放っている光学機器メーカー。OEM、ODMに特化し、開発・設計、試作、製造、梱包、出荷まで一貫したサービスを提供、国内製造シェアは約80%を占め、本場アメリカのマーケットシェアも25%以上を超えるニッチトップ企業として成長を続けている。設備投資にも積極的であり、10年計画を立て、昨年10月には本社敷地内に機械工場、組立ラインなど社屋２棟（新工場）を設けて生産能力を増強するとともに、機械工場へのロボットの導入のほか、レンズ加工の自動研磨、ロボットによる組立も一部で始めるなど、生産自動化への取り組みも着実に進めている。一方で高品質化への取り組みにも一段と力を入れ、新組立ラインには環境センサーを導入するなどICT活用で徹底した管理を行い、温湿度管理の「見える化」で従業員の働き方にもプラスの効果が出ている。 **本講座では、諏訪の地から世界を目指し、世界市場から高い評価をされている技術力と高品質を生み出す生産体制・生産現場（新工場）を視察するなど、同社の取り組み・企業力について研修する。**	諏訪市	令和5年12月（予定） （株）ライト光機製作所・ 本社工場
1月	独自技術で他社では真似できない高密度コイル・特殊コイルで唯一無二の企業へ	株式会社セルコ 代表取締役社長 小林　靖知　様	コイル巻線という製造業の中でも、最も手がかかり、品質的には厳しく、またコストが安い製品の業界であるが、同社は10数年前、コイルをきちっと巻きコイル本来の特性を出す「高密度コイル」のコンセプトを打ち出した。独自の技術により開発された高密度コイルは、精密な制御を必要とする半導体露光装置のステッパーやチップマウンターに搭載され、業界No.1の超高密度と言われている。同社の技術は航空宇宙産業分野にも活用され、そして昨今では、EV化の波で、高効率モーターのための高密度コイルが求められるようになり、産業用リニアモーター・ロボット用のモーター、半導体露光装置用のステッパーの他、航空・ロケット・衛星、医療関係の特に精密で高特性を求められる製品に採用されている。同社の保有する独自技術で開発した「高密度コイル・高密度圧縮成型コイル」はNAGANOものづくりエクセレンス2018に認定されるとともに、ものづくり大賞グランプリも受賞している。 **本講座では、差別化された同社の技術と高密度コイルの無限の可能性、常に業界をリードし新たな技術にチャレンジする経営戦略等について研修する。**	小諸市	令和6年1月（予定） （株）セルコ・本社工場
2月	開発力で「付加価値」を加えた、新たなサービスの展開	東洋計器株式会社 代表取締役会長 土田　泰秀　様	卓越した開発力・商品力で、常にメーター業界をリードし続けてきた計量機器メーカー。同社の水道・ガスメーターは、国家検定品として厳密な試験を行い感度・耐久性が保証されている。計量業界として初めて「ISO-9001」を取得し、経済産業大臣から「指定製造事業者」の指定第一号を受けている。国内外に多くの顧客を持つ同社では、国際基準の品質管理体制の下、独自の技術・ノウハウで工場内の生産ライン自動化も進めており、安定した製品供給と徹底的な品質管理を両立する生産体制を整備している。特に、メーターのシステム化にいち早く取り組んでおり、電話回線を利用したテレメーターシステム「りんどう」や、同じく日本初のLPガス用時間帯別・用途別分計装置「HyC-5」など、最先端の通信技術等と融合させることで、画期的な新製品を次々に打ち出している。また、LTE Cat.M1通信による新しい送信機「IoT-R」をKDDIと共同で開発し、日本一の実績を有している。「IoT-R」からスマートセンターへ送られる情報を基に、多彩なコンテンツの提供を実現させるなど、計量機器の新たな付加価値を自ら創出し、国内外に発信しながら更なる飛躍と成長を続けている。 **本講座では、「計量の価値を高めて文明の発展に貢献する」という経営理念のもと、確かな技術力と開発力を活かした同社の新価値創出の取り組みについて研修する。**	松本市	令和6年2月（予定） 東洋計器（株）・本社工場

※上記研修先様には内諾を頂いておりますが、研修先様のご事情や新型コロナウイルス感染拡大状況などになり、開催日・研修先様の変更、中止等となる場合もございますので、予めご了承下さい。

※上記全ての講座で、テーマ・内容に基づく講演及び生産現場視察を予定しておりますが、研修先様のご事情や新型コロナウイルス感染拡大状況などにより変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

※上記研修先様のご事情により受講者数に定員制を設けさせて頂く場合もございます。その際は各回申し込みの先着順となりますので、予めご了承下さい。

※上記研修先様のご事情により、講座によっては競合他社等となりえる受講希望者様の参加をお断りさせて頂く場合もございます。